

# 施工パッケージ型積算方式について

平成28年7月

国土交通省

国土技術政策総合研究所



National Institute for Land  
and Infrastructure Management

# ◆ 内容構成(要点) ◆

## 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

- ☑適用時期と範囲、導入スケジュール
- ☑施工パッケージ型積算方式の特徴
- ☑標準単価から積算単価への補正方法

## 2. 土木工事標準積算基準書について

- ☑28年度は4月版と10月版を作成
- ☑施工パッケージの表記

## 3. 入札・契約図書類における留意事項

- ☑数量算出要領(修正方針と事例)
- ☑数量集計表様式(積上版と施工パッケージ版の相違)

## 4. 設計変更について

- ☑施工パッケージ型積算方式の変更対応方法

## 5. その他

- ☑国総研HPに公表中の施工パッケージ関連資料

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (1) 積算方式のこれまでの取り組み

- ✓積算の効率化を目的として、平成5年から「市場単価」、平成16年から「ユニットプライス型積算」を導入
- ✓変更協議の円滑化を目的として、平成22年から「総価契約単価合意方式」を全ての工事に導入
- ✓より積算を効率化するため、平成24年から、「ユニットプライス型積算」を廃止し「施工パッケージ型積算」を導入

改訂年月		H5年3月まで	H5年4月から	H16年12月から	H22年4月から	H24年10月から
改訂事項		積上型積算を継続	市場単価方式の導入	ユニットプライス型積算方式の試行	総価契約単価合意方式の導入	施工パッケージ型積算方式の試行
積上型積算方式	契約方式	総価契約	総価契約	→	総価契約単価合意	→
	積算方法	・歩掛	・歩掛 ・市場単価 (H20まで工種拡大)	→	→	・歩掛 ・市場単価 ・施工パッケージ
ユニットプライス型積算方式	契約方式			総価契約単価合意	→	H24年4月から廃止
	積算方法			・ユニットプライス (H22まで工種拡大)	→	

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (2) 適用時期と範囲

### 【適用開始】

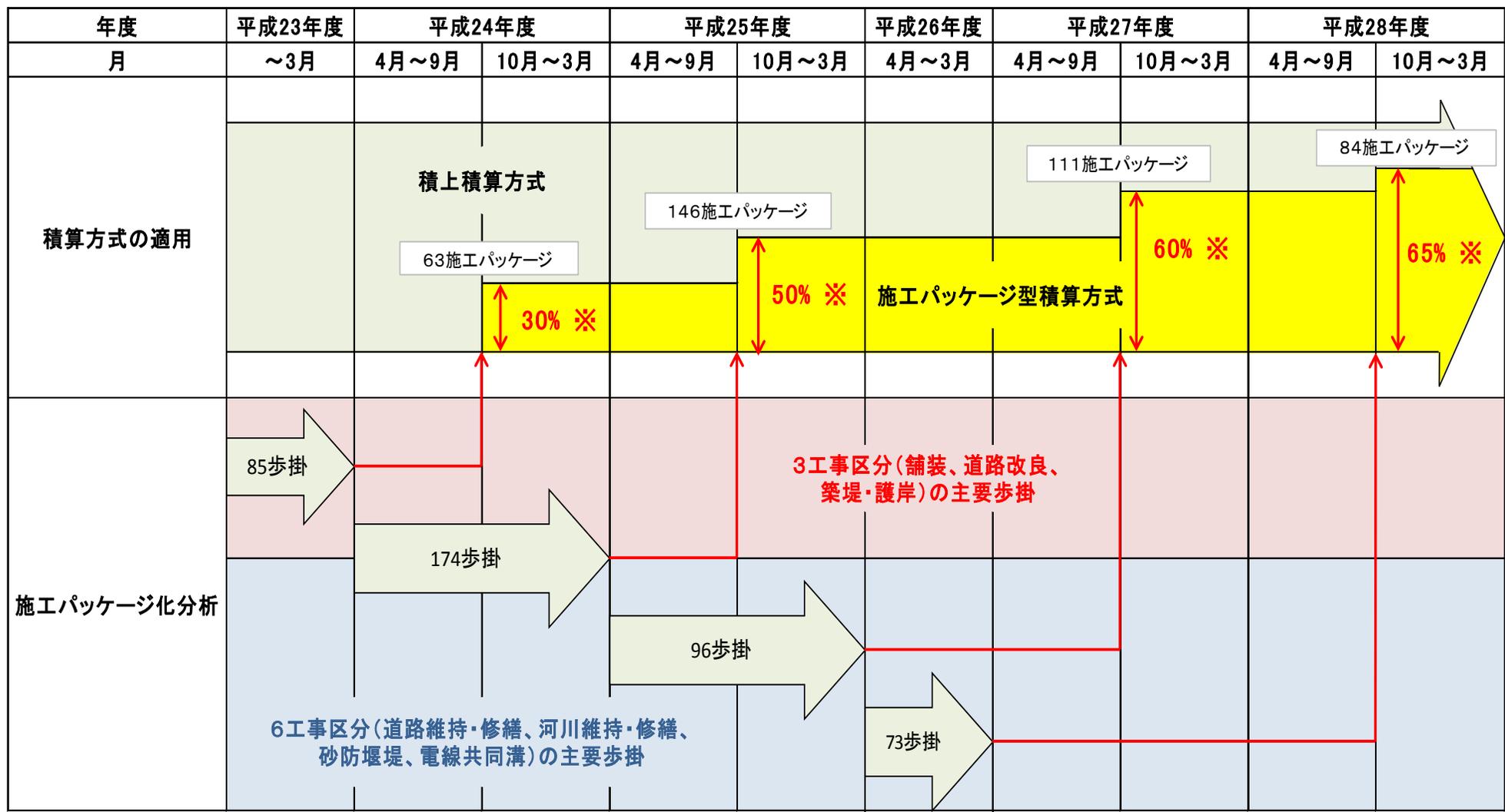
◆平成24年10月1日以降に入札を行う工事より試行を開始。

### 【適用範囲】

- ◆平成24年10月1日から、3工事区分(舗装、道路改良、築堤・護岸)の主要工種に、**63施工パッケージ**を適用。
  - ◆平成25年10月1日から、6工事区分(道路維持、道路修繕、河川維持、河川修繕、砂防堰堤、電線共同溝)の主要工種にも範囲を拡充し、総数209施工パッケージを適用。(改定等により、平成27年4月1日時点で、総数**208施工パッケージ**を適用。)
  - ◆平成27年10月1日から、新たに111施工パッケージを追加し、総数**319施工パッケージ**を適用。
  - ◆平成28年10月1日から、新たに84施工パッケージを追加し、総数**403施工パッケージ**を適用。
- ⇒「施工パッケージ」を導入した工種は、積算基準書から歩掛が削除され、工事区分にかかわらず**全ての土木工事において**「施工パッケージ」による積算を行う。

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (3) 導入スケジュール



※施工パッケージ型積算方式の割合は、積算での使用頻度

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (4) 追加する施工パッケージ① (H28年10月1日追加適用分)

分類	No.	施工パッケージ名
共通工	1	平石張
	2	平石(材料費)
	3	補強土壁壁面材組立・設置
	4	補強土壁壁面材(材料費)
	5	補強材取付
	6	補強材(材料費)
	7	まき出し・敷均し, 締固め
	8	コンクリート削孔(電動ハンマドリル38mm)
	9	コンクリート削孔(さく岩機)
	10	コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)
	11	高欄撤去
	12	アスファルト舗装版破碎・積込み
	13	床版1次破碎・撤去
	14	床版1次及び2次破碎・撤去
	15	桁1次切断・撤去
	16	桁1次及び2次切断・撤去
	17	アスファルト塊運搬
	18	床版運搬
河川維持	19	除草
	20	集草
	21	梱包

分類	No.	施工パッケージ名
河川維持	22	積込・荷卸
	23	運搬(堤防除草)
	24	除草, 集草(人力), 梱包, 積込・荷卸(総合)
	25	除草, 集草(機械), 梱包, 積込・荷卸(総合)
	26	木杭打
砂防	27	粒径処理
	28	攪拌混合
	29	混合材料敷均し・締固め
道路舗装	30	セメントミルク浸透
道路付属施設	31	支柱アンカー
	32	支柱アンカー(材料費)
	33	支柱建込
	34	支柱(材料費)
	35	土留板取付
	36	土留板(材料費)
	37	しゃ音板・透光板取付
	38	しゃ音板・透光板(材料費)
	39	落下防止索(材料費)
	40	下段パネル(材料費)
	41	笠木取付
	42	笠木(材料費)

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (4) 追加する施工パッケージ② (H28年10月1日追加適用分)

分類	No.	施工パッケージ名
道路附属施設	43	外装板取付
	44	外装板(材料費)
	45	水切板取付
	46	水切板(材料費)
	47	組立歩道組立据付
	48	組立歩道(材料費)
	49	トンネル内装板設置
	50	トンネル内装板(材料費)
道路維持修繕	51	クラック補修
	52	注入材(材料費)
	53	クラック防止シート張
	54	クラック防止シート(材料費)
	55	とりこわし
	56	鉄筋
	57	コンクリート
	58	足場・防護
	59	現場溶接鋼桁補強
	60	除草
	61	集草
	62	積込運搬
	63	機械除草(肩掛式)・集草・積込運搬

分類	No.	施工パッケージ名
道路維持修繕	64	機械除草(肩掛式)・集草
	65	機械除草(ハンドガイド式)・集草・積込運搬
	66	機械除草(ハンドガイド式)・集草
	67	面導水
	68	面導水(材料費)
	69	線導水
	70	線導水(材料費)
	共同溝工	71
72		床掘り
73		埋戻し
74		中埋材(材料費)
75		埋設表示シート(材料費)
76		基礎材
77		埋設部管路材設置
78		露出部管路材設置
79		スリーブ(材料費)
80		伸縮継手(材料費)
81		ハンドホール
82		ハンドホール蓋(材料費)
83		ハンドホール固定板(材料費)
84		支持金具(材料費)

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (5) 用語の定義・解説

名称	定義・解説
標準単価 ※	<ul style="list-style-type: none"><li>・東京17区における基準年月の標準的な単価</li><li>・平成28年度の基準年月は平成27年4月</li></ul>
積算単価	<ul style="list-style-type: none"><li>・工事地区、発注時期に応じて標準単価を補正して算出する単価</li><li>・補正により算出可能であるため非公表</li></ul>
補正式 ※	<ul style="list-style-type: none"><li>・積算単価算出の際に使用する補正式 (標準単価、機労材構成比、機労材単価を用いて算出)</li></ul>
代表機労材規格 ※	<ul style="list-style-type: none"><li>・標準単価を設定した際に想定した代表的な機械・労務・材料規格</li><li>・機械3機種、労務4職種、材料4規格、市場単価1規格</li></ul>
機労材構成比 ※	<ul style="list-style-type: none"><li>・標準単価毎に設定された代表機労材規格毎の金額構成比率</li></ul>
工事費内訳書	<ul style="list-style-type: none"><li>・第1回入札に際し、第1回入札書に記載される入札金額に対応した工事費の内訳書であり、入札参加者から提出される</li></ul>
応札者単価	<ul style="list-style-type: none"><li>・工事費内訳書に記載された単価</li></ul>
請負代金内訳書	<ul style="list-style-type: none"><li>・数量総括表に掲げる工種、種別及び細別に対応する金額を表示したもので、契約締結後14日以内に受注者から提出される</li></ul>

※ 国総研HPにて公表

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (6) 積算体系の相違

『施工パッケージ型積算方式』とは、**直接工事費**について、施工単位ごとに機械経費、労務費、材料費を含んだ標準単価を設定し、積算する方式。(H24.10～適用開始)

### 積上型積算

		工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	単価
	下層路盤	舗装			
	モータグ	舗装工			
	普通作業	アスファルト舗装			
タイヤ	ロード	路盤材	下層路盤 RC-40 t=300	m <sup>2</sup>	1,026
運転手	燃料費	モータグ	上層路盤 RM-40 t=200	m <sup>2</sup>	785
燃料費	機械損	ロード	基層 粗粒度AS 再生t=100	m <sup>2</sup>	1,765
機械損	諸雑費	タイヤ	表層 密粒度AS 再生t=50	m <sup>2</sup>	971
諸雑費					

共通仮設費 (率分)  
 (例: 準備費 (準備・測量等) 技術管理費 (品質管理費等))

共通仮設費 (積上げ分)  
 (例: 運搬費 (20t以上の重機等) 技術管理費 (特別な品質管理))

現場管理費

一般管理費等

工種毎に機労材単価を積み上げる。さらに各工種の必要量を計上する。

### 施工パッケージ型積算方式

「標準単価」  
(下層路盤)

直接工事費  
(機械経費 + 労務費 + 材料費)

共通仮設費 (率分)  
 (例: 準備費 (準備・測量等) 技術管理費 (品質管理費等))

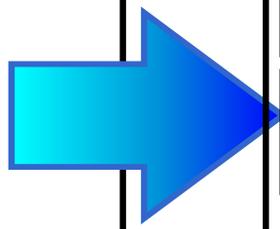
共通仮設費 (積上げ分)  
 (例: 運搬費 (20t以上の重機等) 技術管理費 (特別な品質管理))

現場管理費

一般管理費等

目的物について、積算条件毎に設定された「標準単価」を選ぶだけ。

間接費の積算は積上積算と共通



# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (7) 透明性の確保(標準単価と補正式の公表)

標準単価、補正式等をホームページで公表。  
これらを用い、各地区・時期の積算単価を算出することが可能。



≪補正式(イメージ)≫

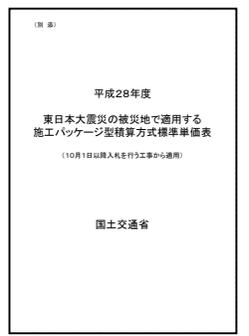
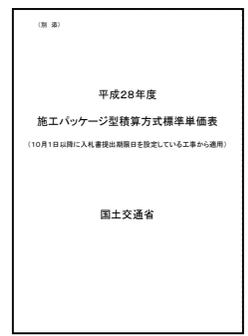
H28.4 大阪 積算単価

$$= \text{H27.4東京標準単価} \times \left[ K \times \frac{\text{H28.4大阪機械単価}}{\text{H27.4東京機械単価}} + R \times \frac{\text{H28.4大阪労務単価}}{\text{H27.4東京労務単価}} + Z \times \frac{\text{H28.4大阪材料単価}}{\text{H27.4東京材料単価}} \right]$$

K: 標準単価に占める機械費の構成割合  
R: 標準単価に占める労務費の構成割合  
Z: 標準単価に占める材料費の構成割合

### 国総研HPで公表

- 施工パッケージ型積算方式標準単価表
- 東日本大震災の被災地で適用する施工パッケージ型積算方式標準単価表



# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (7) 透明性の確保(標準単価表の内容)

施工パッケージごとに、標準単価、機労材構成比、代表機労材規格を公表。

### 【下層路盤(車道・路肩部)の一例】

条件区分		標準単価	機労材構成比															
平均厚さ	材料		K			R				Z				S				
			K1	K2	K3	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4					
75mm以上 125mm以下	クラッシュラン C-40	711.06	7.76	2.84	2.21	2.07	16.00	8.20	6.48	-	-	76.24	74.51	1.59	-	-	-	-
125mmを超え 175mm以下		975.85	5.65	2.07	1.61	1.51	11.65	5.97	4.72	-	-	82.70	81.44	1.16	-	-	-	-

標準単価      機械構成比率      労務構成比率      材料構成比率      市場単価  
構成比率

代表機労材規格											
K (*印: 賃料)			R				Z				S
K1	K2	K3	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4	
モータグレーダ [土工用・排出ガス対策型 (第1次基準値)] ブレード幅3.1m	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量10~12t 締固め幅2.1m	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量8~20t	運転手 (特殊)	普通作			クラッシュラン C-40	軽油 1.2号			
								パトロール給油			
モータグレーダ [土工用・排出ガス対策型 (第1次基準値)] ブレード幅3.1m	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量10~12t 締固め幅2.1m	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量8~20t	運転手 (特殊)	普通作業員							

代表機労材規格

機労材構成比K1~K3、R1~R4、Z1~Z4の合計が、K、R、Zと一致しない場合もあるが、標準単価には代表材料規格に示していない費用も含んでいる。

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (8) 標準単価から積算単価への補正式

施工パッケージ型積算方式で用いる、標準単価(P)から積算単価(P')への補正式は以下の通り。

$$\begin{aligned}
 \ll \text{補正式} \gg \quad P' = P \times & \left\{ \left( \frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{K_r}{K1r + \dots + K3r} \right. \\
 & + \left( \frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{R_r}{R1r + \dots + R4r} \\
 & + \left( \frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Z_r}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{S_r}{100} \times \frac{S_t'}{S_t} \\
 & \left. + \frac{100 - K_r - R_r - Z_r - S_r}{100} \right\}
 \end{aligned}$$

機械: 3機種  
 労務: 4職種  
 材料: 4規格  
 市場単価: 1規格

P': 積算単価(積算地区、積算年月)

P: 標準単価(東京17区、基準年月)

K<sub>r</sub>: 標準単価における全機械(K1~K3,他)の構成比合計

K<sub>1r</sub>~K<sub>3r</sub>: 標準単価における代表機械規格K1~3の構成比

K<sub>1t</sub>~K<sub>3t</sub>: 代表機械規格K1~3の単価(東京17区、基準年月)

K<sub>1t'</sub>~K<sub>3t'</sub>: 代表機械規格K1~3の単価(積算地区、積算年月)

R<sub>r</sub>: 標準単価における全労務(R1~R4,他)の構成比合計

R<sub>1r</sub>~R<sub>4r</sub>: 標準単価における代表労務規格R1~4の構成比

R<sub>1t</sub>~R<sub>4t</sub>: 代表労務規格R1~4の単価(東京17区、基準年月)

R<sub>1t'</sub>~R<sub>4t'</sub>: 代表労務規格R1~4の単価(積算地区、積算年月)

Z<sub>r</sub>: 標準単価における全材料(Z1~Z4,他)の構成比合計

Z<sub>1r</sub>~Z<sub>4r</sub>: 標準単価における代表材料規格Z1~4の構成比

Z<sub>1t</sub>~Z<sub>4t</sub>: 代表材料規格Z1~4の単価(東京17区、基準年月)

Z<sub>1t'</sub>~Z<sub>4t'</sub>: 代表材料規格Z1~4の単価(積算地区、積算年月)

S<sub>r</sub>: 標準単価における市場単価Sの構成比

S<sub>t</sub>: 市場単価Sの所与条件における単価(東京17区、基準年月)

S<sub>t'</sub>: 市場単価Sの所与条件における単価(積算地区、積算年月)

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (9) 標準単価から積算単価への算出方法(計算例)

アスファルト舗装工 表層(車道・路肩部)(45~55mm、1.4m以上、密粒度As20、タックコートPK-4、標準単価1,661.5円)の積算単価(名古屋、H28.4)を算出する。

表層(車道・路肩部)の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H27.4)(円)	名古屋(H28.4)(円)
K		3.34	—	—
K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 舗装幅 2.4~6.0m	1.81	40,100	40,100
K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 8~20t	0.50	11,000	11,000
K3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 10~12t 締固め幅 2.1m	0.50	11,900	11,900
R		8.33	—	—
R1	普通作業員	3.01	19,200	18,600
R2	特殊作業員	1.72	22,000	21,800
R3	運転手(特殊)	1.67	21,600	21,400
R4	土木一般世話役	0.60	23,300	22,200
Z		88.33	—	—
Z1	アスファルト混合物 密粒度 AS 混合物(20)	85.57	11,300	11,000
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.35	91.0	91.5
Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	0.35	107	90

P'(名古屋 H28.4) = 1,661.5

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left( \frac{1.81}{100} \times \frac{40,100}{40,100} + \frac{0.50}{100} \times \frac{11,000}{11,000} + \frac{0.50}{100} \times \frac{11,900}{11,900} \right) \times \frac{3.34}{1.81 + 0.50 + 0.50} \right. \\
 & + \left( \frac{3.01}{100} \times \frac{18,600}{19,200} + \frac{1.72}{100} \times \frac{21,800}{22,000} + \frac{1.67}{100} \times \frac{21,400}{21,600} + \frac{0.60}{100} \times \frac{22,200}{23,300} \right) \times \frac{8.33}{3.01 + 1.72 + 1.67 + 0.60} \\
 & + \left( \frac{85.57}{100} \times \frac{11,000}{11,300} + \frac{2.35}{100} \times \frac{91.5}{91.0} + \frac{0.35}{100} \times \frac{90}{107} \right) \times \frac{88.33}{85.57 + 2.35 + 0.35} \\
 & \left. + \frac{100 - 3.34 - 8.33 - 88.33}{100} \right\} = 1,619.98427817783 \dots \approx 1,620(\text{円}/\text{m}^2)
 \end{aligned}$$

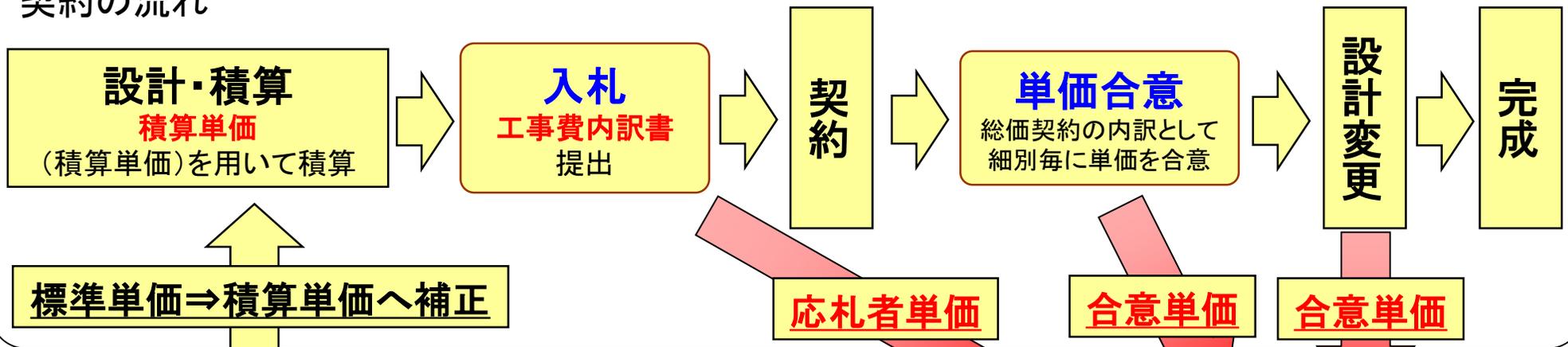
※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (10) 標準単価改定方針

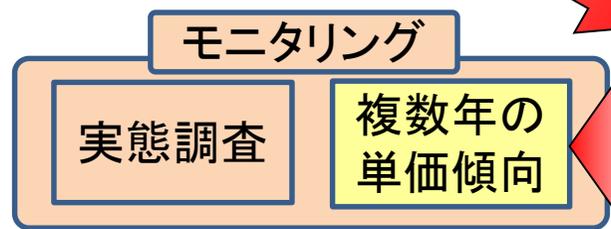
受発注者で合意した単価(合意単価)及び応札者単価の単価変動や、実際の施工状況等の変動(実態調査)をモニタリングする。変動があると判断した場合には、施工合理化調査を行い、新たな「標準単価」に改定。

契約の流れ



**標準単価**  
(標準単価と補正式を公表)

施工合理化調査



変動があると判断した場合



・「低入札」等不適切な工事は除外

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (11) 期待される効果

### 期待される受発注者への効果

#### ◆元下間の契約の透明性の向上

- 「標準単価」として直接工事費が公表されるとともに、施工パッケージ単位で総価契約単価合意を実施し、合意単価が示されることとなるため、元下間の契約の透明性にも効果が見込まれる。

#### ◆価格の透明性の向上

- 標準単価及び積算単価への補正方法等を公表することにより、発注者の価格設定が明確化され、受注後の単価協議や設計変更時等における受発注者の協議の円滑化が見込まれる。

#### ◆積算業務等の負担軽減

- 積算作業の簡素化が図られる。

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## 【参考】 施工パッケージ一覧① (H28年4月適用分)

分類	No	施工パッケージ名称
土工	1	掘削
	2	土砂等運搬
	3	整地
	4	路体(築堤)盛土
	5	路床盛土
	6	押土(ルーズ)
	7	積込(ルーズ)
	8	人力積込
	9	転石破碎
	10	土材料
	11	残土等処分
	12	床掘り
	13	掘削補助機械搬入搬出作業
	14	基面整正
	15	舗装版破碎積込(小規模土工)
	16	埋戻し
	17	タンバ締固め
	18	人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石
	19	人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等
	20	人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)積ブロック類
	21	人肩運搬(運搬～取卸し)
	22	小車運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石
	23	小車運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等
	24	小車運搬(積込み～運搬～取卸し)積ブロック類
	25	小車運搬(運搬～取卸し)
	26	ベルトコンベヤ(ポータブル)併用人力掘削(床掘り)
	27	ベルトコンベヤ(ポータブル)併用人力積込
	28	安定処理
共通工	29	法面整形
	30	市松芝
	31	吹付法面取壊し
	32	プレキャストコンクリート板
	33	プレキャストコンクリート板(材料費)
	34	ジョイント処理
	35	ジョイント金物(材料費)

分類	No	施工パッケージ名称
共通工	36	人工張芝
	37	基礎碎石
	38	裏込碎石
	39	基礎栗石
	40	裏込栗石
	41	採取小割
	42	コンクリートブロック積
	43	間知ブロック張
	44	平ブロック張
	45	連節ブロック張
	46	緑化ブロック積
	47	緑化ブロック(材料費)
	48	天端ブロック(材料費)
	49	胴込・裏込コンクリート
	50	胴込・裏込材(碎石)
	51	遮水シート張
	52	吸出し防止材(全面)設置
	53	植樹
	54	現場打基礎コンクリート
	55	天端コンクリート
	56	石積(練石)(複合)
	57	石張(複合)
	58	石積(張)
	59	石積(張)(材料費)
	60	胴込・裏込コンクリート
	61	裏込材(クラッシュラン)
	62	小型擁壁(A)
	63	小型擁壁(B)
	64	重力式擁壁
	65	もたれ式擁壁
	66	逆T型擁壁
	67	L型擁壁
68	ベールラインコンクリート(材料費)	
69	コンクリート(場所打擁壁)	
70	プレキャスト擁壁設置	

分類	No	施工パッケージ名称
共通工	71	ジオテキスタイル壁面材組立・設置
	72	ジオテキスタイル壁面材(材料費)
	73	ジオテキスタイル敷設, まき出し・敷均し, 締固め
	74	ジオテキスタイル(材料費)
	75	ヒューム管(B形管)
	76	ボックスカルバート
	77	暗渠排水管
	78	フィルター材
	79	管(函)渠型側溝(製品長 2m/個)
	80	プレキャスト集水樹
	81	プレキャスト集水樹(材料費)
	82	鉄筋コンクリート台付管
	83	プレキャストL形側溝(製品長 0.6m/個)
	84	プレキャストマンホール
	85	PC管
	86	コルゲートパイプ
	87	コルゲートフリューム
	88	現場打ち水路(本体)
	89	現場打ち集水樹・街渠樹(本体)
	90	サンドマット
	91	安定シート・ネット
	92	粉体噴射攪拌
	93	粉体噴射攪拌(移設)
	94	粉体噴射攪拌(軸間変更)
	95	削孔(アンカー)
	96	アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理(アンカー)
	97	グラウト注入(アンカー)
	98	ボーリングマシン移設(アンカー)
	99	足場(アンカー)
	100	アンカー(材料費)
	101	石積取壊し(人力)
	102	コンクリートはつり
	103	積込(コンクリート殻)
	104	吸出し防止材設置

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## 【参考】 施工パッケージ一覧② (H28年4月適用分)

分類	No	施工パッケージ名称	
共通工	105	目地板	
	106	止水板	
	107	じゃかご	
	108	ふとんかご	
	109	止杭打込	
	110	発泡スチロール設置	
	111	発泡スチロール(材料費)	
	112	緊結金具(材料費)	
	113	コンクリート床版	
	114	支柱結合アンカー(材料費)	
	115	支柱設置	
	116	支柱(材料費)	
	117	壁面材設置	
	118	壁面材(材料費)	
	119	裏込砕石(軽量盛土)	
	120	現場取卸(鋼桁)	
	121	現場取卸(PC桁)	
	122	現場取卸(鋼管杭)	
	123	函渠	
	124	コンクリート(場所打函渠)	
	125	殻運搬	
	コンクリート工	126	コンクリート
		127	モルタル練
		128	型枠
		129	化粧型枠
130		化粧型枠(材料費)	
131		撤去しない埋設型枠(材料費)	
132		型枠(鉄筋構造)[省力化構造]	
河川海岸	133	消波根固めブロック製作	
	134	消波根固めブロック据付	
	135	消波根固めブロック運搬	
	136	消波根固めブロック仮置	
	137	根固めブロック撤去	
	138	捨石	
	139	捨石(材料費)	
	140	表面均し	

分類	No	施工パッケージ名称
河川維持	141	不陸整正・締固め
	142	抜根
	143	施肥
	144	伐木・伐竹(伐木除根)
	145	除根(伐木除根)
	146	整地(伐木除根)
	147	集積積み(機械施工)(伐木除根)
	148	集積(人力施工)(伐木除根)
	149	積み込み(人力施工)(伐木除根)
	150	運搬(伐木除根)
	151	伐木・伐竹(複合)
	152	散在塵芥収集
	153	堆積塵芥収集(機械処理)
	154	堆積塵芥収集(人力処理)
	155	削孔
	156	注入
	157	注入設備据付・解体
	158	河床等掘削
	159	軟弱土等運搬
	160	巨石張(練)
	161	巨石張(空)
	162	巨石積(練)
	163	巨石採取
	164	巨石(材料費)
	165	プレキャスト基礎
	166	プレキャスト基礎(材料費)
	167	中詰コンクリート(材料費)
	168	中詰コンクリート打設
	169	かごマット設置(スロープ型)
	170	野芝種子吹付
	171	被覆シート張
	172	養生(散水養生)
	173	袋詰玉石
174	笠コンクリートブロック	
175	笠コンクリートブロック(材料費)	
176	グラウトホール	
177	グラウト管(材料費)	

分類	No	施工パッケージ名称
河川維持	178	掘削(光ケーブル配管)
	179	埋戻し・締固め
	180	敷砂, 保護砂(材料費)
	181	配管設置(埋設部)
	182	配管設置(露出部)
	183	配管支持金具(材料費)
	184	ブルボックス(材料費)
	185	可とう電線管(材料費)
	186	伸縮継手(材料費)
	187	ノーマルバンド(材料費)
砂防	188	多孔保護管(材料費)
	189	ハンドホール
	190	掘削(砂防)
	191	土砂等運搬(砂防)
地すべり防止工	192	押土(ルーズ)(砂防)
	193	積込(ルーズ)(砂防)
	194	ボーリング
	195	保孔管
	196	ボーリング仮設機材
	197	足場(地表)
	道路舗装	198
199		下層路盤(車道・路肩部)
200		下層路盤(歩道部)
201		上層路盤(車道・路肩部)
202		上層路盤(歩道部)
203		基層(車道・路肩部)
204		中間層(車道・路肩部)
205		表層(車道・路肩部)
206		基層(歩道部)
207		中間層(歩道部)
208		表層(歩道部)
209		アスカープ
210		排水性舗装・表層(車道・路肩部)
211	フィルター層	
212	透水性アスファルト舗装	
213	踏掛版	

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## 【参考】 施工パッケージ一覧③ (H28年4月適用分)

分類	No	施工パッケージ名称
道路付属施設	214	基礎ブロック(立入防止柵)
	215	金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)
	216	支柱
	217	支柱(材料費)
	218	車止めポスト
	219	防雪柵
	220	防雪柵(材料費)
	221	防雪柵現地張出し・収納
	222	雪崩予防柵
	223	雪崩予防柵(材料費)
	224	吊柵アンカー
	225	パイプアンカー(材料費)
	226	樹脂アンカー(材料費)
	227	簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去
	228	ボックスビーム
	229	落下物等防止柵
	230	落下物等防止柵(材料費)
	231	歩車道境界ブロック
	232	地先境界ブロック
	233	歩車道境界ブロック撤去
	234	地先境界ブロック撤去
	235	特殊ブロック舗装
	236	排水柵
	237	橋名板取付
238	橋梁用高欄	
239	橋梁用高欄一体式(材料費)	
道路維持修繕	240	飾り高欄
	241	飾り高欄(材料費)
	242	距離標
	243	スノーポール設置・撤去
	244	スノーポール(材料費)
	245	路面切削
	246	殻運搬(路面切削)
	247	舗装版破砕
	248	舗装版切断
	249	素地調整

分類	No	施工パッケージ名称
道路維持修繕	250	付属構造物塗替
	251	張紙防止塗装
	252	張紙防止塗装(材料費)
	253	鋼板(材料費)
	254	スタッドジベル(材料費)
	255	鋼板巻立て
	256	シール材(材料費)
	257	注入材(材料費)
	258	現場溶接
	259	フーチングアンカー削孔・定着
	260	アンカー材(材料費)
	261	アンカー注入材(材料費)
	262	鋼板取付
	263	シール材(材料費)
	264	注入材(材料費)
	265	コンクリート削孔
	266	コンクリート巻立て
	267	足場(適用範囲外コンクリート巻立て工)
	268	下地処理(適用範囲外コンクリート巻立て工)
	269	型枠(適用範囲外コンクリート巻立て工)
	270	コンクリート(適用範囲外コンクリート巻立て工)
	271	支承取替(鋼橋)
	272	支承取替(PC橋)
	273	支承(材料費)
	274	足場
	275	コンクリート削孔(コアボーリングマシン)
	276	コンクリート削孔(ハンマドリル)
	277	コンクリート削孔(さく岩機[ハンドドリル])
	278	アンカー
	279	アンカー材(材料費)
	280	注入材(材料費)
	281	充填補修
	282	補修材(材料費)
	283	路面清掃(路肩部・人力)
284	路面清掃(歩道等・人力)	

分類	No	施工パッケージ名称
道路維持修繕	285	視線誘導標清掃
	286	側溝清掃(人力清掃工)
	287	樹清掃(人力清掃工)
	288	チップング(厚1~2cm)
	289	アンカーボルト挿入
	290	アンカーボルト(材料費)
	291	注入材(材料費)
	292	桁連結装置(材料費)
	293	芯出し素地調整
	294	現場孔明
	295	連結板取付
	296	現場溶接
	297	ボルト締め
	298	路肩整正(人力による土はね)
共同溝工	299	ガードレール復旧
	300	ガードパイプ復旧
	301	舗装版破砕積込
	302	床掘り
	303	埋戻し・締め
	304	運搬(電線共同溝)
	305	軽量鋼矢板設置・撤去
	306	覆工板設置・撤去
	307	管路材設置
	308	受金具(材料費)
	309	支持金具(材料費)
	310	管路受台(スベーサ)(材料費)
	311	プレキャストボックスブロック設置
	312	蓋設置
橋梁工	313	蓋(材料費)
	314	型枠(鋼橋床版)
	315	養生(鋼橋床版)
	316	コンクリートアンカーボルト設置
	317	排水管設置
	318	排水管(材料費)
その他	319	現場発成品・支給品運搬

## 2. 土木工事標準積算基準書

### (1) 積算基準書の公表時期と適用方法

- ◆平成28年度の「土木工事積算基準書」は**2種類**(4月版・10月版)作成。
- ◆施工パッケージを設定した工種については、歩掛を廃止して施工パッケージに置き換え。

#### (1) 4月版

- 4月閲覧公表
- 平成28年度上期(4月～**9月末まで**)の入札工事に適用
- 施工パッケージ型積算(319施工パッケージ)と積上型積算(市場単価を含む)により予定価格を算出

#### (2) 10月版

- 5月閲覧公表
- 平成28年度下期(**10月1日以降**)の入札工事に適用
- 施工パッケージ型積算(319+**84**施工パッケージ)と積上型積算(市場単価を含む)により予定価格を算出

## 2. 土木工事標準積算基準書について

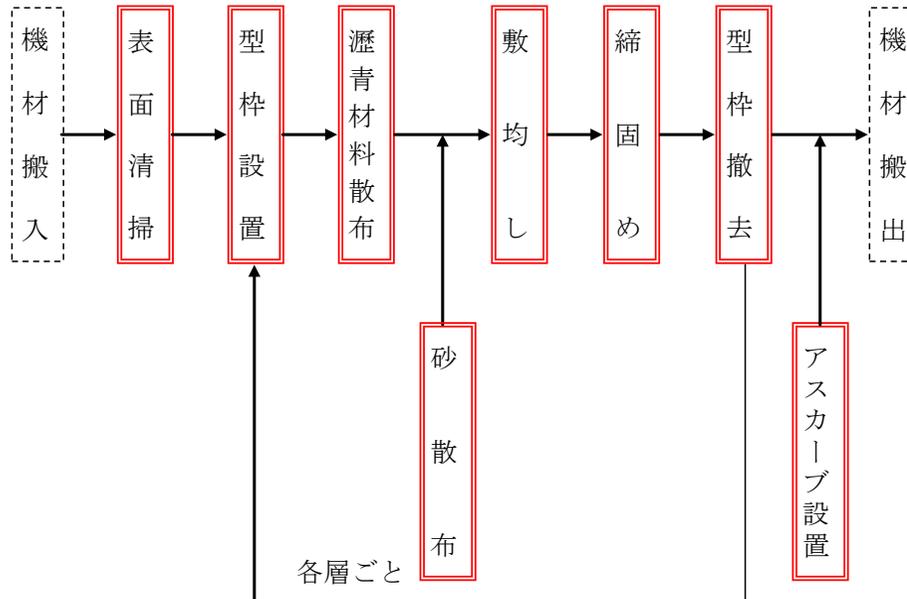
### (2) 施工パッケージの表記(施工概要)

- ◆施工フローで、施工パッケージが該当する箇所は「**二重実線**」で表記。
- ※歩掛で対応する箇所は、「**一重実線**」で表記。

#### 【記載例:アスファルト舗装工】

##### 2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



施工概要にある施工フローで、  
**施工パッケージが該当する箇所は、  
「二重実線」で表記。**  
※歩掛で対応する箇所は、「**一重実線**」  
で表記。

- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。  
2. 砂散布の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

# 2. 土木工事標準積算基準書について

## (3) 施工パッケージの表記(積算条件区分、費用内訳)

- ◆ 施工パッケージは、条件区分に**積算条件区分一覧**と**費用内訳**を記載。
- ◆ 費用内訳には、**積算条件区分に含まれる内容**を記載。

### 【記載例:アスファルト舗装工】

3-2 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.6 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部) 積算条件区分一覧  
(積算単位:m<sup>2</sup>)

平均厚さ	平均幅員	材料	瀝青材料種類
25mm以上35mm未満	1.4m未満	(表3.7)	(表3.3)
	1.4m以上		
35mm以上45mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
45mm以上55mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
55mm以上65mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
65mm以上70mm以下	1.4m未満		
	1.4m以上		

○積算条件区分一覧を記載  
(積算条件区分ごとの標準単価は標準単価表(国総研HP)に掲載)。

○注釈には、積算条件区分に含まれる**費用内訳(赤線部)**や、特筆すべき内容を記載。

(注) 1. 上表は、歩道部における基層、中間層又は表層のアスファルト混合物敷均し・締固め、アスファルト乳剤散布の他、砂の散布、舗装用器具、補助機械、型枠材料、加熱燃料、瀝青材飛散保護等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。  
 2. アスファルト混合物・瀝青材料の材料ロスを含む。  
 3. 幅員にかかわらず機械施工が困難な場合は平均幅員1.4m未満を適用する。

## 2. 土木工事標準積算基準書について

### (4) 施工パッケージの表記(代表機労材規格一覧)

◆標準単価を設定した代表的な機械・労務・材料規格を表示。

最大で機械：3種類、労務：4種類、材料：4種類、市場単価：1種類。

【1つのパッケージに1つの代表機労材規格のもの】

【土砂等運搬】

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 ダンプトラック[オンロード・ディーゼル]10t 積級	・タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
	K2 -	
	K3 -	
労務	R1 運転手(一般)	
	R2 -	
	R3 -	
	R4 -	
材料	Z1 軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z2 -	
	Z3 -	
	Z4 -	
市場単価	S -	

代表機労材は、標準単価に含まれる主なものの規格を表示。

代表機労材規格には示していなくても、標準単価には施工に必要な全ての費用を含んでいる。

【1つのパッケージに複数の代表機労材規格があるのもの】

【基層(歩道部)・中間層(歩道部) 平均幅員1.4m以上の場合】

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 アスファルトフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅1.4~3.0m	
	K2 振動ローラ(舗装用)[搭乗・コンバインド式] 質量3~4t	賃料
	K3 -	
労務	R1 普通作業員	
	R2 特殊作業員	
	R3 運転手(特殊)	
	R4 土木一般世話役	
材料	再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物 (20)	標準締固め後密度 2.20t/m <sup>3</sup>
	Z1 アスファルト混合物 細粒度AS混合物 (13)	標準締固め後密度 2.15t/m <sup>3</sup>
	再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物 (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.40t/m <sup>3</sup> 未満)
	Z2 アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
	Z3 軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z4 -	
市場単価	S -	

# 2. 土木工事標準積算基準書について

## (5) 施工パッケージの表記(歩掛条件を括った場合の記載)

◆施工パッケージにおいて単価差が小さい歩掛の条件区分は、積算の簡素化を目的にその条件区分を括り、積算条件から削除。積算基準書には「〇〇の有無にかかわらず適用出来る」ことを施工概要に記載。

### 【記載例:アスファルト舗装工】

#### 《積上積算(歩掛時)》

②-1 アスファルト舗装工

1. 適用範囲  
本資料は、アスファルト舗装工事に適用する。なお、アスファルト混合物の積算は、購入方式を標準とし、プラント方式の場合は別途考慮する。

2. 施工概要  
施工フローは、下記を標準とする。

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

砂散布費  
瀝青材料を散布後やむを得ず交通を解放する場合等、砂の散布が必要な場合は、砂散布の費用として、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

砂散布费率 (%)	
タックコート	9
プライムコート	10

#### 《施工パッケージ》

② アスファルト舗装工

1. 適用範囲  
本資料は、舗装工における基層・中間層・表層及び縁石工におけるアスカープに適用する。

1-1 適用出来る範囲  
(1) アスファルト混合物が購入方式の場合  
(2) 施工箇所が車道・路肩部で平均厚さが25mm以上、70mm以下の場合  
(3) 施工箇所が歩道部で平均厚さが25mm以上、70mm以下の場合  
(4) 断面積が125cm<sup>2</sup>以上、300cm<sup>2</sup>未満のアスカープの場合

1-2 適用出来ない範囲  
(1) アスファルト混合物が現地プラント方式の場合  
(2) アスファルト混合物の締め後密度が1.90t/m<sup>3</sup>未満、2.50t/m<sup>3</sup>以上の場合

2. 施工概要  
施工フローは、下記を標準とする。

(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。  
2. 砂散布の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

条件区分を括った場合は、「〇〇の有無にかかわらず適用出来る」と記載

# 2. 土木工事標準積算基準書について

## (6) 施工パッケージの表記(「実数入力」の『条件区分化』)

◆施工パッケージでは、積算の簡素化から、積上積算方式における「実数入力」を極力『条件区分化』している。

### 【記載例：路盤工】

表3.6 平均厚さ

積算条件	区分
平均厚さ	75mm以上 125mm以下
	125mmを超え 175mm以下
	175mmを超え 200mm以下
	200mmを超え 225mm以下
	225mmを超え 275mm以下
	275mmを超え 325mm以下
	325mmを超え 375mm以下
	375mmを超え 400mm以下
	400mmを超え 425mm以下
	425mmを超え 475mm以下
	475mmを超え 525mm以下
	525mmを超え 575mm以下
	575mmを超え 600mm以下
	600mmを超え 625mm以下
	625mmを超え 675mm以下
	675mmを超え 725mm以下
	725mmを超え 775mm以下
	775mmを超え 800mm以下
	800mmを超え 825mm以下
	825mmを超え 875mm以下
875mmを超え 925mm以下	
925mmを超え 975mm以下	
1,025mmを超え1,075mm以下	
1,075mmを超え1,125mm以下	

3-2 下層路盤(車道・路肩部)

(1) 条件区分  
条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 下層路盤(車道・路肩部) 積算条件区分一覧  
(積算単位：m2)

平均厚さ	材料
(表3.6)	クラッシュラン(C-20)
	クラッシュラン(C-30)
	クラッシュラン(C-40)
	再生クラッシュラン(RC-20)
	再生クラッシュラン(RC-30)
	再生クラッシュラン(RC-40)
	路盤材(各種)

(注) 1. 上表は、車道部及び路肩部の下層路盤(凍上抑制層がある場合も含む)の路盤材敷均し・締固めの他、散水等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。  
2. 路盤材はロスを含む。

積上積算方式での「実数入力」条件を「条件区分化」

過去の実績がある範囲で設定。

### 3. 入札・契約図書類における留意事項

#### (1) 変更のあるもの、ないもの

(1) 入札公告・説明書等

(2) 工事特記仕様書、図面

(3) 総価契約単価合意方式  
(単価協議等)

積上積算方式と変更なし

(4) 設計内訳書(工事工種体系)

(5) 数量算出要領

(6) 数量集計表様式

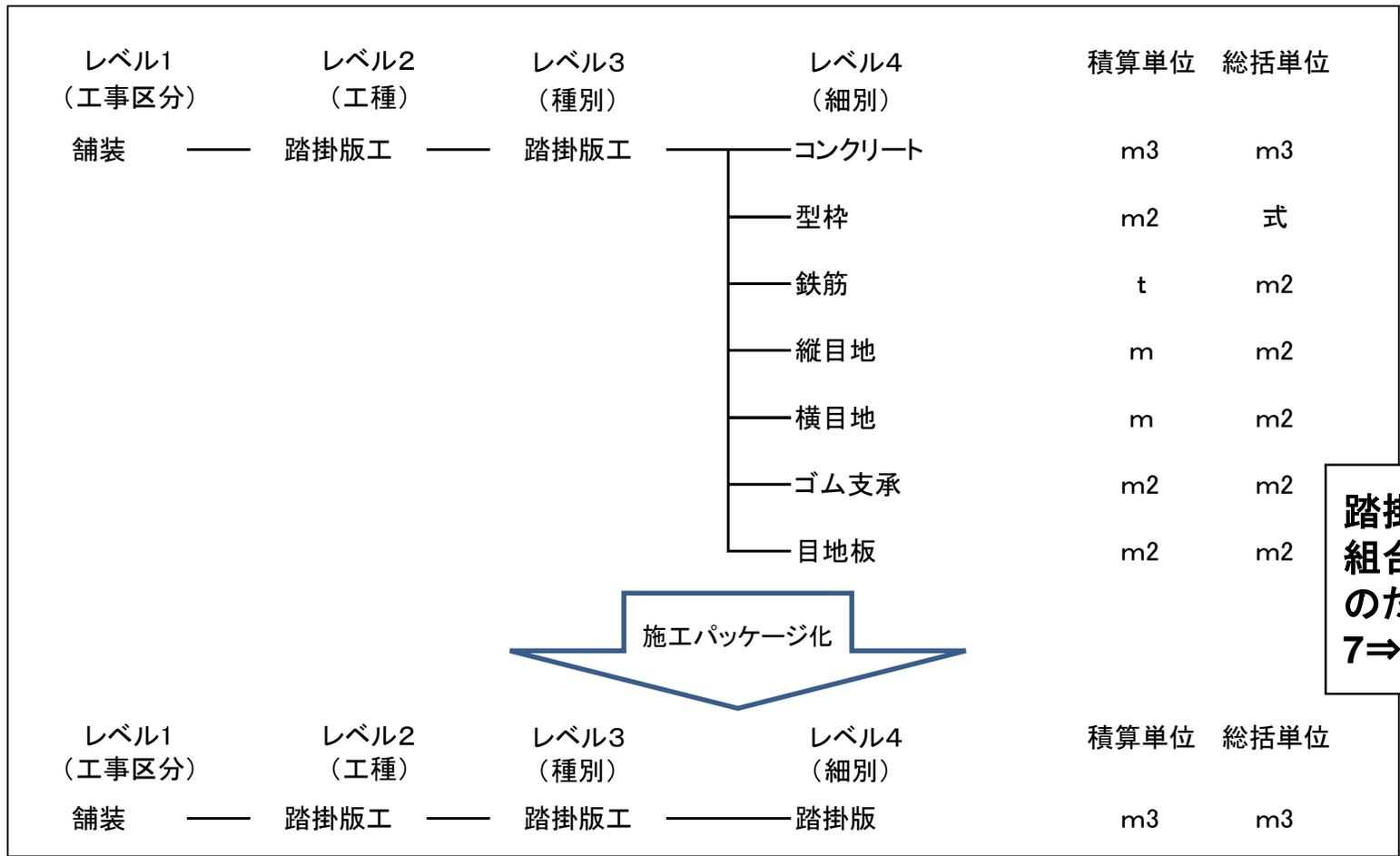
積上積算方式と  
変更あり

# 3. 入札・契約図書類における留意事項

## (2) 工事工種体系ツリーの変更

施工パッケージ化に伴い工事工種体系ツリーを一部変更している。

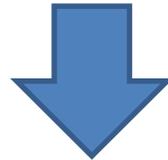
### 【踏掛版の例】



踏掛版は、複数工種を  
組合せた施工パッケージ  
のため、細別数が  
7⇒1に減少

### 3. 入札・契約図書類における留意事項 (3) 数量算出要領修正の方針

- ✓ 数量算出の基本的な考えは従来の積上と同じ
- ✓ 施工パッケージ化に伴う積算基準改定と整合を図る



「数量算出要領の変更点」

≡ 「積算基準の変更点」

# 3. 入札・契約図書類における留意事項

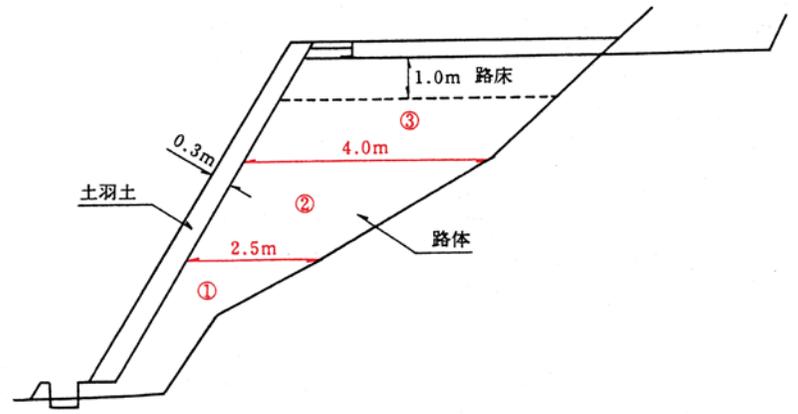
## (4) 数量算出要領 積算基準改定に伴う修正事例 (1/2)

### ✓ 区分の見直しに伴う修正

例:「盛土」の施工幅区分

また、~~盛土施工幅路体~~ (築堤) 盛土は施工幅員、路床盛土は平均幅員により下記のとおり区分して算出する。

- ~~① 1.0m未満~~
- ~~② 1.0m以上~~    ① 2.5m未満
- ~~③ 2.5m以上4.0m未満~~
- ~~④ 4.0m以上~~    ③ 4.0m以上



- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 【積上】  | 【施工パッケージ】                     |
| ① 1.0m未満…100m <sup>3</sup>                      | ⇒ ① 2.5m未満 …300m <sup>3</sup> |
| ② 1.0m 以上2.5m <sup>3</sup> 未満…200m <sup>3</sup> | ② 2.5m 以上4.0m未満               |
| ③ 2.5m以上4.0m未満                                  | ③ 4.0m以上                      |
| ④ 4.0m以上  | 積上の①②区分を集約                    |

区分の集約化

### ✓ 実数入力 of 区分化に伴う修正

例:「排水性アスファルト舗装」の舗装厚

(3) 舗装厚区分  
排水性アスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。



(3) 平均舗装厚さ区分  
排水性アスファルト舗装面積を平均舗装厚さごとに区分して算出する。

平均施工幅員	平均厚さ
1.4m未満	35mm以上45mm未満
	45mm以上50mm以下
2.4m以上	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
	55mm以上65mm未満

- |   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 【積上】  | 【施工パッケージ】                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・35mm…500m<sup>2</sup></li> <li>・38mm…500m<sup>2</sup></li> <li>・44mm…1000m<sup>2</sup></li> </ul> | ⇒ 35mm以上45mm未満 …2000m <sup>2</sup> |
| 舗装厚毎に面積を算出  | 区分化した厚さ毎に算出                        |

実数入力を区分化

# 3. 入札・契約図書類における留意事項

## (5) 数量算出要領 積算基準改定に伴う修正事例 (2/2)

### ✓ 数量算出項目・区分の削除に伴う修正

例:「現場打擁壁」の目地材、水抜きパイプ、吸出防止材【積上】

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備考
擁壁本体	コンクリート	○	○	○	—	m3	○	
基礎	砕石	20cm超え	×	×	○	—	○	
		20cm以下	×	×	○	—	×	
均し	コンクリート	×	×	×	○	—	×	
目地材		×	×	×	○	—	×	
水抜きパイプ		×	×	×	○	—	×	
吸出し防止材	点	×	×	×	○	—	×	
	帯状・全面	×	×	○	—	m2	○	
鉄筋		×	×	○	—	t	○	

### 【施工パッケージ】

↓ 項目・区分から削除

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	擁壁平均高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考
小型擁壁 (A)		○	○	×	×	○	○	○	×	m3		
小型擁壁 (B)		○	○	○	×	○	○	○	×	m3		
重力式擁壁		○	○	×	×	○	○	○	○	m3		
もたれ式擁壁		×	○	×	×	○	○	○	○	m3		
逆T型擁壁		×	○	×	○	○	○	○	○	m3		
L型擁壁		×	○	×	○	○	○	○	○	m3		

施工パッケージでは、場所打擁壁の目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材は使用の有無にかかわらず同じ単価で積算する(積算基準書に記載)。

積算条件を大括り化し、項目・区分を削除

### ✓ 数量算出項目・区分の追加に伴う修正

例:「函渠」の養生工の種類【積上】

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	断面	必要性の有無	単位	数量	備考
函渠本体	コンクリート	○	○	—	m <sup>3</sup>	○	
基礎	砕石	敷均し厚20cm以下	×	×	○	—	×
		敷均し厚20cm超え	○	×	—	m <sup>2</sup>	○
均し	コンクリート	×	×	○	—	×	

### 【施工パッケージ】

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	断面内空寸法	必要性の有無	養生工の種類	単位	数量	備考
函渠本体	コンクリート	○	○	—	○	m <sup>3</sup>	○	
基礎	砕石	敷均し厚20cm以下	×	×	×	—	×	
		敷均し厚20cm超え	○	×	—	×	m <sup>2</sup>	○
均し	コンクリート	×	×	○	×	—	×	

従来は発注段階で検討するものとして区分化されていなかったものを追加。

項目・区分の追加

# 3. 入札・契約図書類における留意事項

## (6) 数量集計表 積上版と施工パッケージ版の相違

従来の積上版と施工パッケージ版の2種類の集計表を用意。  
 施工パッケージ型積算方式は積算条件毎に応札者単価、合意単価を収集するため、  
 施工パッケージ版の集計表は**積算条件毎の数量**を算出するように作成。

【積上版】 例：アスファルト舗装工（積上版と施工パッケージ版の違い）

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分				合計	A地区	B地区			内訳数量表別紙	備考
アスファルト舗装工			式	m2											
	表層	[材料種別、材料規格、舗装厚]	m2	m2	合計				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
					車道	W>3.0m			0.0						W施工幅
						1.4m ≤ W ≤ 3.0m			0.0						
						W<1.4m			0.0						
					路肩	W>3.0m			0.0						
						1.4m ≤ W ≤ 3.0m			0.0						
						W<1.4m			0.0						



【施工パッケージ版】

レベル4(細別)	レベル5(規格)	レベル6(積算要素)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分				合計	A地区	B地区			備考	
		-	-	-					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		表層(車道部・路肩部)	m2	m	平均厚さ	平均幅員	材料	瀝青材料種類							
					25mm以上 45mm未満	1.4m未満	密粒度アスコン(20)	タココート PK-4	0.0						
								0.0							
								0.0							
								0.0							
								0.0							
								0.0							
								0.0							
								0.0							

積算条件毎に単価を収集するため、  
 数量区分には積算条件を全て記載。

施工パッケージ版は積上版にある  
 内訳数量表を数量区分に記載した  
 ため削除。

# 4. 設計変更について

## 施工パッケージ型積算方式の変更対応方法

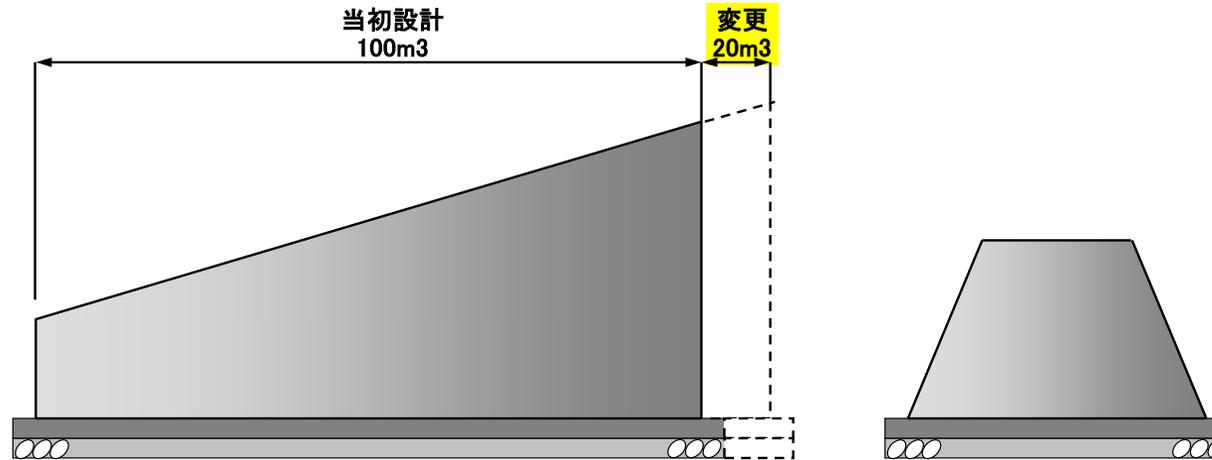
◆ 変更対象となる・ならない、変更積算における基本的な考え方は積上積算と同じ。

変更要素	変更内容	変更対応方法	備考
施工数量の変更	Co打設量、土量、舗装面積など	積算単価 × 変更施工量で対応	【解説】 具体例－1参照
使用材料の変更	Co規格(呼び強度、セメント種類)、 舗装材料など	積算条件区分の変更で対応	【解説】 具体例－2参照
条件区分の変更	舗装厚、運搬距離、土質、 昼夜間など	適用範囲及び積算条件区分の範囲に、 含まれる場合 ⇒ 変更なし 含まれない場合 ⇒ 積算条件区分の変更で対応	【解説】 具体例－3参照
施工機械の変更	代表機労材規格と違う施工機械を 使用する場合など	現場条件が適用範囲から外れていた場合 ⇒ 見積対応 (例; 高所作業車の適応高さ外) 積算条件に施工機種が無い場合 ⇒ 変更なし	【解説】 具体例－4参照

# 4. 設計変更について

## (1) 施工数量の変更(打設量、掘削量など)

【事例1】現場条件などにより小型擁壁の設置延長が増加した場合は、**積算単価×変更施工量**で対応する。

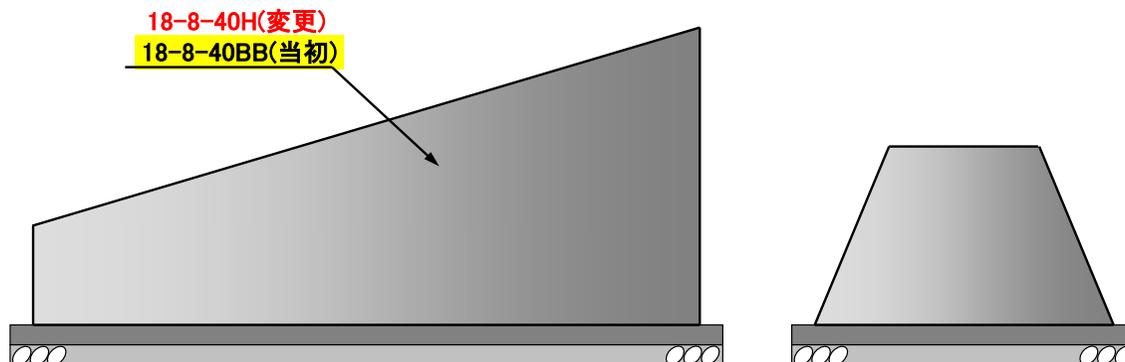


工事名	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
道路改良		式	1	1		
擁壁工		式	1	1		
場所打擁壁工 (構造物単位)		式	1	1		
小型擁壁	コンクリート規格:18-8-40BB	m3	100	120		

# 4. 設計変更について

## (2) 使用材料の変更(数量が同じで規格のみ変更)

【事例2】関係機関との協議により施工工程が厳しくなり、工期短縮を図るため小型擁壁のコンクリート規格に早強の使用を指示した場合は、新単価による再合意を行う。その際、新単価の算出は**標準単価の材料規格を補正して算出する**。



工事数量総括表

(当初)

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
道路改良		式	1	1		
擁壁工		式	1	1		
場所打擁壁工 (構造物単位)		式	1	1		
小型擁壁	コンクリート規格: 18-8-40BB	m3	100	0	←	当初
小型擁壁	コンクリート規格: 18-8-40H	m3	0	100	←	変更

# 4. 設計変更について

## (3) 幅のある条件区分の変更(As舗装の厚さなど)

**【事例3】**図面が変更になり、当初の積算条件区分外になった場合は、**条件区分の変更**で対応。但し、積算条件区分に含まれる範囲は変更しない。

【記載例:アスファルト舗装 基層・中間層・表層】

### 3. 施工パッケージ

3-1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)  
(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

平均厚さ:50mm→55mm 変更○  
平均厚さ:50mm→54mm 変更×

表3.1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部) 積算条件区分一覧  
(積算単位:m<sup>2</sup>)

平均厚さ	平均幅員	材料	瀝青材料種類
25mm以上35mm未満	1.4m未満	(表3.2)	
	1.4m以上		
35mm以上45mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
45mm以上55mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
55mm以上65mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
65mm以上70mm以下	1.4m未満		
	1.4m以上		

他に、“運搬距離変更”、“土質変更”、“昼夜間変更”等も条件区分の変更で対応する。

# 4. 設計変更について

## (4) 施工機種の変更

【事例4】自主施工を原則とするため、基準書記載の適用範囲（施工高さ、深さなど）及び積算条件区分に含まれる範囲は、変更しない。

### 【積算】

施工土量: 80,000m<sup>3</sup>  
積算単価: 「土量50,000m<sup>3</sup>以上」で算出

#### 積込(ルーズ) 積算条件区分一覧

(積算単位:m<sup>3</sup>)

土質	作業内容
土砂	土量50,000m <sup>3</sup> 未満 ←
	土量50,000m <sup>3</sup> 以上 ←
	平均施工幅1m以上2m未満

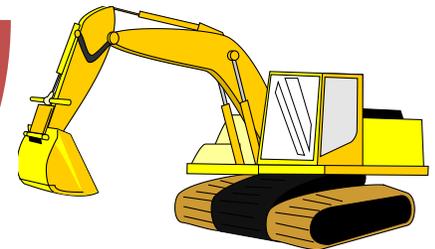
《施工パッケージで  
想定している機械》

バックホウ 0.8m<sup>3</sup>  
バックホウ 1.4m<sup>3</sup>

※基準書の代表機労材規格  
一覧に表示。

### 【現場】

現場で使用した機械  
バックホウ0.8m<sup>3</sup>



現場で0.8m<sup>3</sup>のバックホウを使用したからといって、  
積算条件を「土量50,000m<sup>3</sup>未満」に変更しない。

## 5. その他

### 国総研HP公表内容（平成 28年7月現在）

- ◆ 施工パッケージ型積算方式について(説明資料)
- ◆ 施工パッケージ型積算方式標準単価表
- ◆ 東日本大震災の被災地で適用する施工パッケージ型積算方式標準単価表
- ◆ 代表材料規格の基準単価作成方法について(代表機労材規格一覧)
- ◆ 施工パッケージ型積算方式Q&A
- ◆ 土木工事数量算出要領(案)
- ◆ 工事工種体系ツリー

【国総研HP掲載場所】

[国総研トップページ](#) > [各研究分野のページ](#) > [社会資本マネジメント研究センター](#) > [社会資本システム研究室](#) > [研究テーマ・技術情報](#)